

今月のコンテンツ

- 2021年・新年のご挨拶
理事長・副理事長・業務執行理事より
- 「社会医学系の人材育成について（日本公衆衛生学会シンポジウムの報告）」
- 【連載】社会医学系専門医の「いま・未来」：宇田英典先生が登場
- 「COVID-19の保健所支援（積極的疫学調査）チーム」に関して
- 学術総会のご案内
- 事務局からのお知らせ

理事長よりのご挨拶



謹んで新春をお祝い申し上げます。

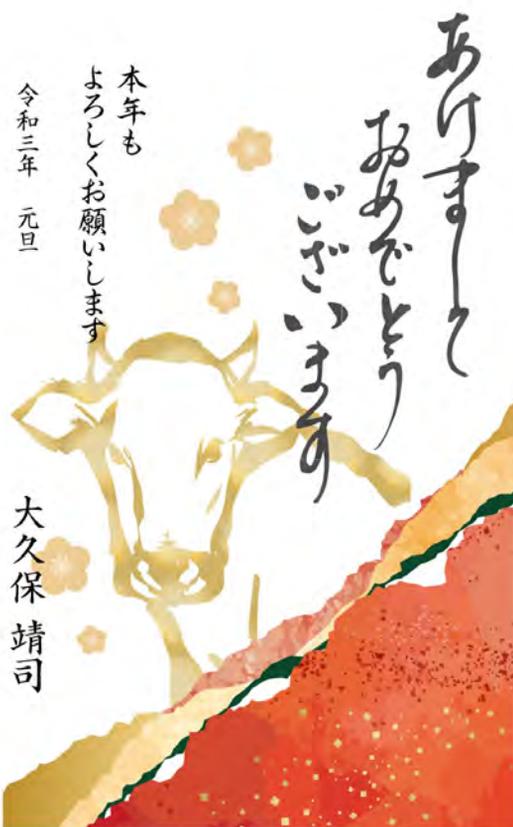
皆様におかれましては新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。COVID-19パンデミックにより、祝詞は呑気だと思われうる時世となっています。私達の生活環境は激変し、人々の健康に、行動に、心に、経済に、大きな負担がかかっています。世界も我が国も予断の許さない状況となり、保健・医療・介護界にも大きな圧力がかかる中、身を挺して人々の命と健康を守っておられる皆様に深い敬意を表します。

この大変な、変化する時代、共生や持続可能性が益々重要となる時代に、社会医学、公衆衛生の意義・役割を再認識し、地道な活動と貴重な発展を持続したいものです。あるべき姿に向け、自由な発想と勇気ある行動で道を拓いていくことが求められます。皆様のお力添えのもと協働を通じ、社会医学系専門医制度も社会に役立つ必須基盤として成長することを目指しています。

皆様にとりまして、この新しい年が、より佳き発展の年でありますことを心から祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

理事長 今中 雄一

副理事長よりのご挨拶



あけましておめでとうございます。

昨年は新型コロナウイルス感染症の流行で世界中が混沌としました。未だ、終息の様子は見えない状態で、社会医学系専門医、指導医そして関連の方々におかれては、全力で対応にあたっておられることと思います。

皆様のご活躍により、公衆衛生学、公衆衛生行政、社会医学の必要性が広く知られることとなってきているように感じております。一方で、新型コロナウイルス感染症についての情報が交錯し、ITの進歩と普及により誰でも多くの情報に容易にアクセスできるようになった現代では、正しい情報を正しく理解するという情報リテラシーの必要性を痛感しています。社会医学系専門医協会としても、本協会の領域での正しい情報の提供と普及に努めることが求められていると思われ、設立時に尾身先生から、公衆衛生の普及のための活動も進めて欲しい。とのコメントをいただいたことを思い出しました。

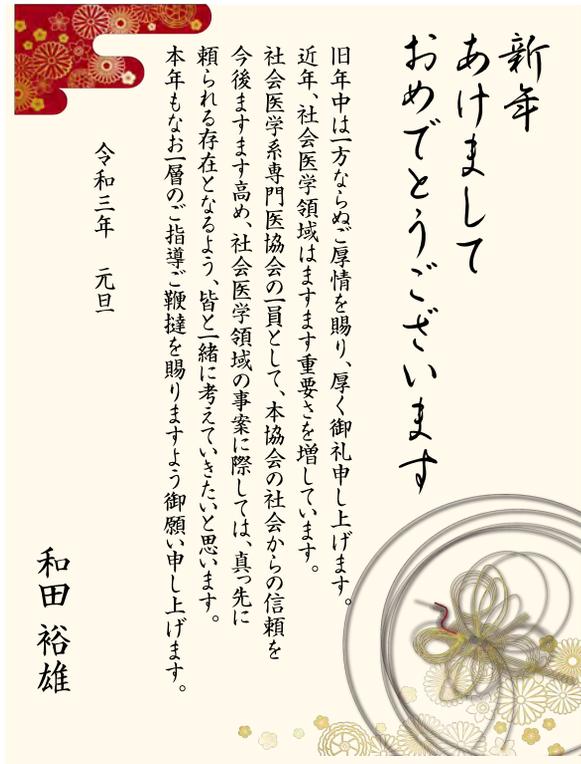
本協会は、専門医の育成と認定を目的としていますが、そのための事業として社会医学系領域の成果の普及と啓発活動も挙げています。今は、新型コロナウイルス感染症対応で皆様も手一杯の状況ですが、本領域の成果の普及と啓発のための活動を計画し、推進する必要な状況にあると思われ、本年は、その活動の整備を進めたいと考えています。

その節には、皆様のご指導、ご協力をいただきたく、お願いいたします。

副理事長 会計担当理事
大久保靖司

業務執行理事より年賀状でのご挨拶





社会医学系人材育成について（日本公衆衛生学会シンポジウムのご報告）

順天堂大学医学部公衆衛生学講座

和田 裕雄

第79回日本公衆衛生学会総会（今中雄一学会長、於 京都、2020年10月20日（火）～22日（木））にて、シンポジウム「いま、社会医学系医師を考える」を開催致しました。本シンポジウムは、社会医学領域を専門とする医師の確保・育成を目的とした厚生労働科学研究費「公衆衛生等の社会医学系分野で活躍する医師の育成・確保に向けた研究」の活動内容を紹介するとともに、社会医学系専門医の目指す将来像や在り方を提示することを目的とし、磯 博康先生（大阪大学大学院医学系研究科）および今中 雄一先生（京都大学大学院医学研究科）を座長として開催されました。社会医学領域の第一人者である5名の先生方および私の計6名がシンポジスト・指定発言者として登壇いたしました。

まず、佐々木 昌弘先生（厚生労働省大臣官房厚生科学課）には、『社会医学系医師に期待され、求められるもの』と題し、医学教育、医師法、初期研修において社会医学系医師への期待と求めがどのように規定されているかをご紹介頂き、それを元に御議論頂きました。

次に、内田 勝彦先生（大分県東部保健所）には、『保健所の仕事（新型コロナウイルス対策含む）と期待される医師像』と題し、保健所機能および行政医師の役割、新型コロナウイルス感染症への対応、および保健所医師に今後求められる役割についてご紹介頂きました。

続いて、宮園 将哉先生（大阪府健康医療部）には、『公衆衛生・衛生行政医師の確保と育成に関する調査と実践事業の成果と今後の方向性』と題し、全国の自治体や保健所および全国の医学部・医科大学それぞれに対して実施した調査の成果、医学生から医師まで各層に対する広報活動、およびこれらの事業成果の応用についてご紹介頂き、今後の方向性について御議論頂きました。

玉腰 暁子先生（北海道大学大学院医学研究院公衆衛生学）には、『大学の立場から「学部・大学院の社会医学系医師の育成」』と題し、公衆衛生現場の医師や社会医学系を志す医師が不足している現状を鑑み、学部・大学院の課程から社会医学系医師を確保・育成するための考察をご紹介頂き、御議論頂きました。

末尾に、和田 裕雄（順天堂大学大学院医学研究科）は、『公衆衛生等の社会医学系分野で活躍する医師の育成・確保に向けて』と題し、本研究班のこれまでの成果と今後の計画についてご紹介致しました。

最後に、指定発言として、宇田 英典先生（本協会監事・前理事長、地域医療振興協会地域医療研究所ヘルスプロモーション研究センター）に、『社会医学系専門医への期待』と題し、社会医学系専門医制度についてご紹介頂くとともに、社会医学系専門医の魅力や期待についてご教示頂きました。

本シンポジウムを契機に、社会医学系専門医のキャリア形成、人材確保等の社会医学領域の発展に役立つよう尽力してまいります。最後に、シンポジウムの準備・開催にあたり多大なご支援を賜りました多くの先生方・関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

【連載】社会医学系専門医の「いま・未来」；宇田英典先生が登場

順天堂大学医学部公衆衛生学講座

和田 裕雄

厚生労働科学研究費「公衆衛生等の社会医学系分野で活躍する医師の育成・確保に向けた研究」は、磯 博康先生（大阪大学大学院医学系研究科）を研究代表者とし、社会医学領域を専門とする医師の確保・育成を目的とした研究です。研究体制は社会医学系専門医協会を中心として構成されており、本協会理事長である今中 雄一先生（京都大学大学院医学研究科）も研究分担者として携わられています。

本研究では、社会医学系医師についての広報活動の一環として、様々なアプローチのWEBコンテンツを準備しています。WEBコンテンツには社会医学系医師の仕事の紹介動画、同漫画、社会医学系医師のモデルケースとなるような先生方へのインタビュー記事などがあり、インタビュー記事へは、本協会監事・前理事長の宇田 英典先生にもご登場頂きましたので、ご紹介致します。

インタビュー記事は『【連載】社会医学系専門医の「いま・未来」』と題し、医学生、研修医、若手医師向けのウェブサイトにて連載中です。現在、第3回まで配信しています。

皆様の社会医学系領域の講義、社会医学系医師のキャリアの説明、後輩の勧誘等、様々な場面で活用をお願いできれば幸いに存じます。

【第1回】「生命や健康のインフラ」たる 社会医学のプロフェッショナルを育む
一般社団法人 社会医学系専門医協会 理事長

宇田 英典先生

<https://resident.mynavi.jp/magazines/special/detail/390>

【第2回】 マネジメント視点で取り組む「健康な街づくりと健全な病院づくり」
千葉大学医学部附属病院病院長企画室総合調整員 千葉大学予防医学センター特任助教
亀田 義人先生

<https://resident.mynavi.jp/magazines/special/detail/387>

【第3回】「地域を診る医師」として保健所で住民の健康をサポート
東京都大田区保健所感染症対策課長

高橋 千香先生

<https://resident.mynavi.jp/magazines/special/detail/237>

COVID-19の保健所支援チームに関して

日本公衆衛生学会理事長

磯 博康

日本公衆衛生学会では、学会内の感染症対策委員会の検討をもとに現状の公衆衛生体制を最大限活用した緊急対応を政府、自治体、国民に求める声明を2020年3月4日以来発出してきた

(<https://www.jsph.jp/covid/>)。また、保健所を中心とした積極的疫学調査の徹底のために、厚生労働省のクラスター対策班の協力を得て、全国保健所長会に呼びかけ、オンライン研修会を3月29日に開催した（資料：上記URL参照）。

緊急事態宣言が発出された4月7日以降5月21日の解除後の時点で、第1波を乗り越えたが、6月下旬からの感染者数の再増加を受け、7月2日の午前中に、日本疫会（理事長：祖父江友孝）、日本公衆衛生学会、日本感染症学会、日本感染環境学会が連名で「感染症対策のためのデータ収集システムの構築と利活用に関する要望」を、内閣府特命担当大臣と厚生労働大臣に提出し、保健所、医療機関、行政機関からの依頼に応じて人的・技術的支援を行う旨を伝えた

(<https://www.jsph.jp/covid/>)。

その日が偶然にも東京都で感染者が100人を超えたことと相まって、西村内閣府特命担当大臣から、祖父江教授と磯に直接電話があり、夕方の記者会見で、大臣が両理事長への協力を依頼したことが報道された。即座に両学会で厚労省の担当者と協議したところ、データ収集システム（HER-SYS）を構築して全国の保健所から意見を聴取しているところであり、学会からは積極的疫学調査に関わる人材支援が急務ということを知った。そこで、日本公衆衛生学会、日本疫学会、公衆衛生大学院プログラム校連絡会議、日本公衆衛生看護学会、日本地域看護学会、聖路加看護学会、全国保健師教育機関協議会、全国訪問看護事業協会、社会医学系専門医協会に呼びかけ、COVID-19対応施策「保健所支援（積極的疫学調査）チーム」への自主的な登録を依頼し、400人以上の登録者を得られ、これにより、自治体への呼びかけで人材支援を行う体制を構築が構築された。今後はこの登録リストの利活用を進むことが期待される。

COVID-19の保健所支援チームに関して

杉並保健所長 増田和貴

1. 杉並区の特徴

杉並区は東京都の区西部に位置し、人口約57万人です。COVID-19感染者数は12月23日時点累計で2,005人と、都内で7番目に多くなっています。

2. 院内感染指導開始の経緯

杉並区では令和2年4月より社会医学系専門医協会から派遣された疫学専門家の協力のもと、PCR検査を実施する区内医療機関へ院内感染指導を実施しています。

院内感染指導を依頼した経緯ですが、当初、地域の医療機関でPCR検査を実施することに関して医療従事者の意識が低く、PCR検査を実施する地域の医療機関は4つの基幹病院を除いて殆どない状態でした。このため区内の検査体制を充実させるためにも院内感染指導が医療従事者の安心へとつながり、医療機関の意識も変わるのではないかと考えました。また、日ごろ陽性者や濃厚接触者の相談業務を担っている保健師が医療機関の方と接点を持つことで、PCR検査を行う現場への理解が深まり、さらに保健師の疫学調査のレベルも上がることを期待していました。

3. 院内感染指導の実際

12月23日現在、4人の疫学専門家が診療所75ヶ所、病院5ヶ所を訪問しています。実際に患者の動線や検査場所の確認をしながら、適切な検査場所、PPE、検査方法、薬局や会計時の対応、換気方法など安全に検査を実施するための具体的な方法についてご指導いただきました。医療機関の医師だけでなく看護師や受付スタッフなども参加され、様々な質問を受けました。保健所職員も同行し、PCR検査について保健所からの協力依頼も行いました。

4. 院内感染指導の評価

①医療機関からの声

専門家に実際に見てもらえて安心しました。

専門家より感染対策に問題ないと言われたことを周囲に伝えることができ、周囲の安心を得ることができました。

②指導の必要性

患者の動線や換気の良い場所を考慮し、当初医療機関側が考えていた検査場所から変更していただく場合も多くありました。医療機関によって建物の造りは様々で、医師やスタッフの体制も異なり、PCR検査を実施するにあたり、各医療機関に合わせた助言は必要でした。

③指導後の医療機関と保健所の関係性について

PCR検査をかかりつけ患者だけでなく、保健所から紹介された区民も対応していただける医療機関が12月23日現在30ヶ所近くあります。保健所も訪問に同行したことで、コロナ渦の医療機関の現状を知ると共に医療機関と顔の見える関係になり、医療機関との連絡も以前より増え、コミュニケーションが取りやすくなったと感じています。また、感染の不安もある中、PCR検査にご協力いただいたおかげで、区内検査体制の充実につながっており、地域の医療機関には深く感謝いたします。

5. 保健所支援チームについて

疫学専門家として東京大学大学院医学系研究科公衆衛生学の富尾先生、小熊先生、阿部先生、足利大学看護学部公衆衛生看護学の村上先生にはご多忙なところ院内感染指導を快く引き受けていただき、この場をお借りし感謝いたします。また、富尾先生には杉並区医師会や接待を伴う区内飲食店を対象とした研修会でも講師としてご協力いただき、お礼申し上げます。

6. 社会医学系専門医協会について

今回のように迅速な保健所支援、的確なご提案を今後も継続していただけることを希望いたします。

文責 杉並保健所保健予防課 新井文、飯嶋智広、永沢文子、平田幸子、大泉まさ子、北村知世、水谷菜摘

学術集会のご案内

第31回日本疫学会学術総会



開催年月日：2021年1月27日（水）～1月29日（金）

※オンライン配信によるWeb開催

テーマ： 『新たな疫学の展開を求めて』

代表者： 会長 田中 恵太郎

（佐賀大学医学部 社会医学講座 予防医学分野 教授）

事務局連絡先：大会事務局

佐賀大学医学部 社会医学講座 予防医学分野
 〒849-8501 佐賀市鍋島5丁目1番1号
 TEL：0952-34-2289 FAX：0952-34-2065
 E-mail：jea31@ml.cc.saga-u.ac.jp

運営事務局

株式会社日本旅行九州法人支店 Global MICE営業部
 〒812-0011福岡市博多区博多駅前3丁目2-1 日本生命博多駅前ビル5階
 TEL：092-451-0606 FAX：092-451-0550
 E-mail：jea31@nta.co.jp 担当／香田・古賀

開催URL：<https://jea31.com/>

第91回日本衛生学会学術総会


開催年月日：2021（令和3）年3月6日（土）～8日（月）

テーマ： 『これからの衛生学と日本衛生学会の使命』

 代表者： 会長 稲寺 秀邦
 （富山大学 学術研究部医学系 公衆衛生学講座教授）

会場： 完全オンライン開催となりました

 事務連絡先： 学会事務局 富山大学 学術研究部医学系 公衆衛生学講座
 〒930-0194 富山市杉谷2630
 TEL: 076-434-7276

【運営事務局】

株式会社PCO内

〒939-8063 富山市小杉120

 TEL: 076-429-5708 FAX: 076-428-9156 E-mail: jsh91@pcojapan.jp

 開催案内URL： <https://pcojapan.jp/jsh91/>
事務局からのお知らせ

☆年間登録料請求書、協会からのメールマガジンは届いておりますでしょうか？☆

所属先のご異動・お住いのお引越し・メールアドレスの変更等がございましたら、社会医学系専門医協会事務局まで登録内容変更届をご提出ください。

【登録事項変更届のダウンロードは下記URLから】
<http://shakai-senmon-i.umin.jp/news/1231/>

※年間登録料請求書の再発行、領収書の発行をご希望の際は下記お知らせ記事の下部よりサンプルEXCELをダウンロードの上、返信用封筒を同封の上、ご依頼ください。

<http://shakai-senmon-i.umin.jp/news/1879/>
【変更届送付先・請求書、領収書の再発行依頼先】

社会医学系専門医協会 事務局

 E-mail： jbphsm@asas-mail.jp FAX： 03-5981-6012